

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



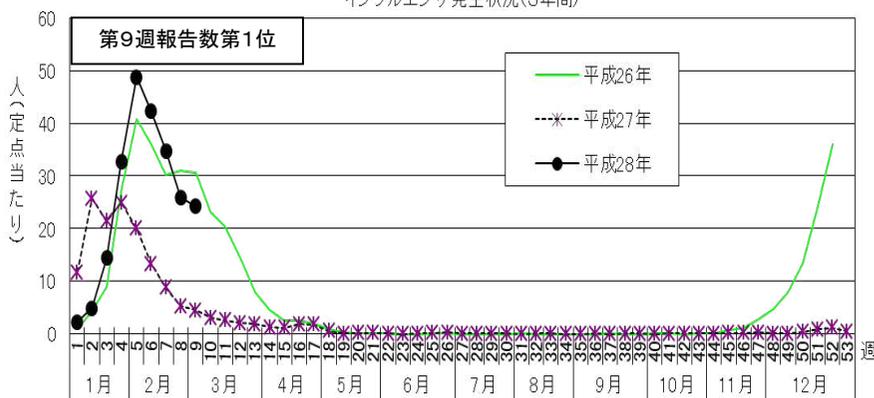
KAWASAKI CITY

平成28年2月29日（月）～平成28年3月6日（日）〔第9週〕の感染症発生状況

第9週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は24.28人と前週（25.91人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.06人と前週（6.42人）から横ばいですが、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.18人と前週（2.45人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



インフルエンザ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



知っておきたい感染症～侵袭性髄膜炎菌感染症～

侵袭性髄膜炎菌感染症は、髄膜炎菌という細菌を原因とする疾患です。日本では比較的珍しい疾患ですが、海外では多くの報告があります。

市内での届出は、2015年までの3年間は1件のみでしたが、2016年はすでに2件の届出がありました。過去には、宮崎県内の学生寮における集団感染が報告されたこともあります。

侵袭性髄膜炎菌感染症ってどんな疾患？

- ▶ **感染経路**：患者の咳やくしゃみによるしぶきを吸い込むことによって感染（飛沫感染）します。
- ▶ **潜伏期間**：通常3～4日（2～10日）
- ▶ **症状**
 - ・初期症状は、発熱や頭痛、嘔吐（おうと）など
 - ・敗血症や髄膜炎などを起こし、発疹やけいれん、意識障害などが出現することもあります。
 - ・重症例では、症状が急激に進行します。
- ▶ **治療**：抗菌薬による治療が有効です。
- ▶ **予防**：感染が疑われた際、発症前に抗菌薬を予防的に内服する方法もあります。国内ではワクチンが平成26年に承認され、平成27年から接種可能となりました。



平成27年、山口県で開催された世界スカウトジャンボリーに、海外から参加した複数の参加者が、帰国後に侵袭性髄膜炎菌感染症を発症する事例がありました。
 * 後に英国で流行している型と判明